

海洋と環境を学ぶ学生が見たクールジャパン

2026 年 1 月 13 日から 22 日の 10 日間、南太平洋大学 USP で海洋環境学や異文化を学ぶ学生 9 名と SV1 名が来日しました。太平洋島嶼国と日本が共有する「海洋」と「環境」というテーマのもと、東京都内、徳島県、香川県を訪れ、多面的な日本の姿に触れながら、それぞれの視点から“クールジャパン”を発見するプログラムとなりました。

都内では、浅草や明治神宮で日本の歴史や伝統に触れ、現代都市に息づく文化の奥深さを体感しました。また、JAMSTEC 東京事務所での講義では、太平洋の海洋環境変動、エルニーニョ・ラニーニャ現象など、学生たちにとって身近な課題が科学的に解説され、理解が一段と深まった様子でした。「自国の異常気象の理由が明確になった」と語る学生もあり、専門分野に直結する貴重な学びとなりました。



皇居二重橋前



明治神宮



JAMSTEC

首都圏でのプログラム後、学生たちは徳島へ移動。海と山が近く、自然・地域社会・産業が密接に結びついた環境の中で、日本各地の取り組みを体感しました。徳島市役所や徳島県庁では、海洋ごみ対策や循環型社会の実現に向けた取り組みを学び、島国として同様の課題を抱える学生たちは、行政と市民が協働する仕組みに強い関心を示していました。

ゼロ・ウェイストタウン上勝では、40 種類以上に分別する精密な資源管理や、地域全体でごみを減らす取り組みに驚き、「自国の村でも応用できる」との声が多く上がりました。NPO クリーンオーシャンアンサンブルでは、海岸

清掃とデータ収集を組み合わせた活動を体験。海洋ごみをデータ化する仕組みに学生たちは感心し、自国の海洋保全活動へ活かす意欲を語っていました。

文化面では、ひょうたん島クルーズでエコ船の仕組みを学びつつ、水辺と都市が調和した景観を楽しみました。また、阿波踊り会館では伝統芸能に触れ、体験コーナーでは南太平洋出身らしい軽やかな動きで踊り、会館スタッフから褒められる場面もありました。藍染体験では、日本の自然素材を生かした伝統技法に触れ、空気に触れて深い藍色へ変化する様子に歓声が上がっていました。



ゼロ・ウェイストタウン上勝



徳島県庁表敬訪問



徳島県庁食堂ランチタイム

さらに、香川県の丸金醤油工場での伝統的な醤油づくり見学や、徳島でのホームステイも学生たちにとって忘れがたい体験となりました。ホスト家族との交流を通じ、生活文化の違いを学びつつ、「日本の家庭の温かさは自国と共通している」と話す学生も多くいました。



徳島科学技術高校で民族ダンス披露



ホームステイ先のホストファミリーと



クリーンオーシャンアンサンブル海岸でゴミ収集

プログラム全体を通し、学生たちは常に積極的で、海洋・環境に関わる日本の取り組みだけでなく、地域文化や人々の生活からも多くを学び取ろうとする姿勢が印象的でした。「ありがとうございます」「おはよう」などの簡単な日本語を使いながら、訪問先の方々との交流を深め、どこでも温かい関係を築いていました。

最終日の振り返りでは、「地域ぐるみの環境保全」「伝統技術と持続可能性」「海洋データの活用」「都市と自然の共存」など、海洋・環境分野を学ぶ学生ならではの鋭い視点から、多様な“クールジャパン”が語られました。堂々と発表する彼らの姿から、このプログラムが大きな刺激と学びを与えたことがうかがえました。

「また日本に来たい」「自国の海を守る活動に生かしたい」。そう語りながら帰国した学生たち。今回の経験が、彼らの将来の学びや地域社会への貢献につながり、太平洋地域と日本の架け橋となってくれることを心から期待しています。



藍染体験



阿波踊り体験



振り返り及び報告会